

ニュース断片

西ドイツの医療費の増加について

連邦労働省の推定によると、1973年の公的
疾病保険の支出は400億マルクの限度を突破
するものとみられる。1972年は346億マルク、
5年前は僅かに205億にすぎなかったもので、
1972年に対し73年の増加は15.9%になる。最
近6年間で支出はほぼ倍増したことになる。
支出の最も多いのは病院、薬局及び医師に対
するもので、入院のため被保険者は1972年、
2年前に比して半分以上の55.6%多く支払っ
ている。これが1973年には1970年に比し、
統計で86.4%に達する見込みである。医薬消
費は2年間に34.7%、1973年は53.9%増加す
るであろう。最後に医師に対しては被保険者
は1970年に対し、1972年は38.3%の増で、最
近3年間の費用は52.1%の増加と推定され
る。

このような増加率はいずれも国民総生産や
賃金の伸びに比し著るしく上まわっている。



1968年205億から1973年402億マルクの支出に
は事務費は一切含まれていないのである。そ
こでボンでは疾病保険の財政をどうするかと
いう問題が強く再燃している。4月初旬には
ドイツ職員組合議長が疾病保険の改革案を提
出するはずであり、労働省でも専門家委員会
を考えている。

党では疾病証(受診の時3か月期限の疾病証を
金庫から受け、これを利用しなかった時は保険料

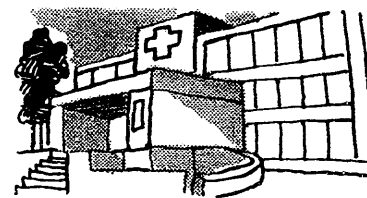
の割戻しがある)の還付制廃止の法案を準備し
ている。

しかし一方与党が1974年に予定している法
案では、約4,400億マルクの費用増額を生ぜ
しめるものと考えられる。この増加の原因
は、入院看護の期限を無制限にしようとする
もの、および疾病金庫は必要の場合(家庭内
で患者のため手をとられる場合など)生計補助を
しようとするもの、また子どもの病気のため就
業できなくなった母親に賃金の補償をしよう
とするものである。

Die Welt, 28. März 1973.

(安積鋭二 国立国会図書館)

西ドイツの職員年金



1980年までの年金

連邦職員保険事務所の計算によると、賃金
・俸給の上昇に応じて職員の年金は1980年ま

で87.69%上昇するものとみられている。
連邦職員保険事務所は、一般算定基礎(労働
者年金保険および職員保険の全被保険者の過去3
年間の平均賃金)が1973年の13,371マルクから